

赤字 内容として追記したもの
青字 項目名を変更したもの

1 はじめに

(1) 検討委員会立ち上げの経過と目的
(学びの改革)
(施設の老朽化)
(施設整備計画等の状況)

(2) 検討期間

2 社会の変化と県立学校の現状と課題

(1) 社会の変化

ア 社会の多様化
イ 生活スタイルの変化
空調設備設置の状況
トイレの整備の状況

(2) 県立学校を取り巻く状況

ア 生徒数の減少
【高等学校】
【特別支援学校】
イ 施設の老朽化と耐震化の優先
ウ これまでの修繕・整備状況
エ 長期にわたる厳しい財政状況
オ 空間のデザイン

3 学校施設の課題と整備の方向性

(1) 学校を構成する空間

ア 学習空間
(新しい学習スタイルを支援する空間)
(一斉授業から個別最適化の授業への転換)
(均質的な授業から柔軟な授業へ)

イ 生活空間
(学習空間と生活空間の整理)
(生徒の交流空間)
(生徒、教職員にとってのゆとりある空間の創造、快適性の確保)

ウ 執務空間

エ 共創空間 (交流空間から変更)

(2) 空間を補助する要素

ア 屋外とのつながり
イ 家具の役割

(3) 空間の配置

ア 多用途に使える空間
イ 空間を有機的につなげる 「ハブ」の重要性

(4) 質の高い豊かな空間

ア 居心地が良い空間
イ 音や温熱への配慮
ウ 断熱性の向上
エ 空調機能の範囲

(5) 長期的な視点による施設整備計画

ア 維持管理
イ 自然エネルギーの活用
ウ 期間に対応した可変性の高い施設整備
(設備、内装、躯体の可変性)
(可変性と可動性の違い)
エ 持続可能な社会
オ SDGs、ゼロエミッション、
カーボンニュートラル

4 地域と共生する学校

(1) 地域の施設として求められる機能と適正な規模等

ア 自然環境、文化、風土、歴史、伝統
イ 社会的な資産としての学校
ウ 地域の拠点化
エ 地域全体での施設の最適化
オ 学校間での施設の共有化

(2) 防災拠点としての施設

(3) 将来を見据えた施設の整備

5 整備の手法

(1) 整備手法(PPP、PFI等)

ア PPP、PFI手法の活用等
イ PFIによるメリット
ウ PFIによるデメリット
エ PFIが活用できる場合
(PPP、PFI導入の判断基準)
(PPP、PFIの対象とする施設)
(PPP、PFIの契約期間と施設の改修)

(2) PPP、PFI以外の民間活力

ア 管理委託(人件費の削減)
イ 民間施設等の利用(使用料の負担)

(3) 財政的な工夫

6 これからの学校づくり

(1) 敷地の検討

(2) 体制の整備

(3) 改築、大規模改修、長寿命化改修
ア 改築
イ 大規模改修、長寿命化改修

(4) 改築、大規模改修の進め方

ア 外部専門家の活用
イ 発注方式

(5) 具体的な整備手法

ア 基本構想、基本計画の作成
イ 学校毎の計画策定から
工事完了まで

(6) 整備後の学校運営

ア コンセプトを実現する
「ヒト(教職員)」の重要性
イ 施設を使いこなす工夫
ウ 設計思想を施設管理者
に伝えていく仕組み

7 県全体計画との整合性

(1) 長野県ファシリティマネジメント基本計画

(2) 中長期修繕・改修計画(個別施設計画)

(3) 第3次長野県教育振興基本計画

(4) 学びの改革 基本構想

(5) 「高校改革 実施方針」

ア 「新たな学びの推進」
イ 再編・整備計画